

教育部会（準備会）

教育部会の設立を呼びかけます。

教育部会の設置は昨年設立総会の活動方針ですでに決まっておりましたが、来る富山総会を前にして、「教育部会」の設立を以下の通り提案することになりました。会員みなさんに広く参加を呼びかけます。

これまでの経緯 —昨年12月に、教育部会設立準備委員会を開催しました—

昨年2005年12月25日（日）～12月27日（火）、岡山県の長島愛生園にて、市民学会運営委員の金泰九さんと国賠訴訟瀬戸内原告団長・宇佐美治さんの立ち会いのもとで、教育部会設立準備委員会を開催いたしました。

1日目（12月25日）。はじめに、市民学会教育部会の趣旨確認と運営に関する意見交流を行いました。つづいて、実践報告（発表）をもとにして学習会を開きました。報告者は、佐久間建さん（東京都東村山市立野火止小学校・現上越教育大学大学院教科領域教育専攻社会系コース在籍）や土田一憲さん（正則高等学校）などでした。

2日目（12月26日）。午前中は、長島愛生園入所者・近藤宏一さんに、「愛生学園の生活と“青い鳥楽団”そして、わたしのふるさと」と題して講演をしていただきました。午後の第1部は、金泰九さんのご案内で園内フィールドワークを、つづいて歴史資料館責任者・宇佐美治さんのご案内で歴史資料館にて学習会を開催しました。つづく第2部では、長島愛生園入所者で、邑久高校新良田教室1期生のTさんに、「邑久高校新良田教室の生活」と題して講演していただきました。

3日目（12月27日）。はじめに、市民学会教育部会の今後の活動について意見交流を行いました。最後は、韓国ソロクト・台湾楽生院訴訟について、金泰九さんや宇佐美治さんからお話をいただきました。

教育部会設立準備委員会の申し合わせ

1. 申し合わせの概略

この部会は、教育者のみならず、「ハンセン病問題と教育」というテーマに関心をもつハンセン病市民学会々員であれば、誰でも参加することができるもので、部会員一人ひとりがハンセン病問題の当事者として主体的に関わることにより運営されます。

運営は「世話人会（12/25現在 3名）」が担います。今後は少しずつこの環を広げて行きたいと思っています。まずは、世話人や部会員が中心となり、できるだけ全国どこかのハンセン病療養所を拠点として、会員が最低年に1回は集まって学習会や交流会を実施したいと思います。そして、そこで明らかになった課題などを部会員全体で共有するための情報発信、また部会員相互の意見交換など、情報の交流を、会員が分担しながら行っていきたいと考えています。

2. 参加希望

参加希望の方は学会事務局か、（E-mailをお持ちの方はメールで情報を提供いたしますので）次の世話人のいずれかまでご連絡ください。（お問い合わせも同所へ）

【学会事務局】

遠藤 隆久（熊本学園大学研究室）〒 862-8680 熊本市大江2-5-1
tel: 096-364-8920 fax: 096-372-0702 endoh@kumagaku.ac.jp

【世話人】

・江連 恭弘（えづれ やすひろ）
E-mail ezu@palette.plala.or.jp

・佐久間 建（さくま けん）
E-mail j175362b@cc.juen.ac.jp

・延 和聰（のぶ かずとし）
E-mail ksy1343@fkym.enjoy.ne.jp